

(様式)

平成26年1月17日

## 平成25年度 小学校からの教科専門性向上事業 実施報告書

教育委員会名

八百津町教育委員会

### 1 学力向上チャレンジ校名・責任者氏名

ふりがな	やおつりょうりつやおつしょうがっこう	ふりがな	まつむらとしゆき
学校名	八百津町立八百津小学校	校長氏名	松村 敏幸

### 2 取組内容

#### (1) 組織・指導体制に関わる取組内容

小学校において、専門的な教科指導を実施するためには、教職員の専門性とそれを活かした学級担任、教科担任の配置等の校内人事が重要なポイントとなる。本校のように、小規模校の場合には、自校職員の免許所有教科を考えた時、必ずしも全教科そろうということは難しい。従って、免許所有教科に加え、得意教科、指導可能教科も含めて、校内人事を考えていく必要がある。

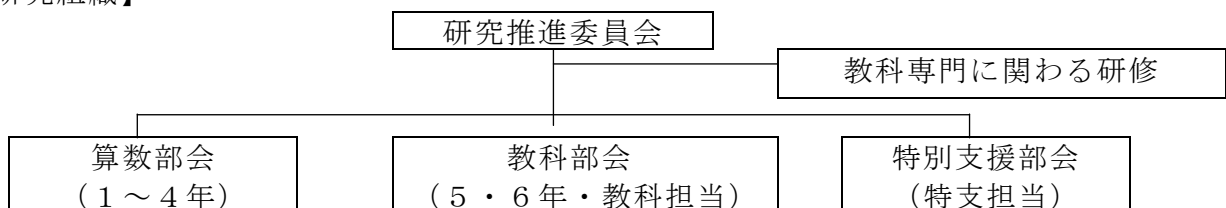
教科担任制を進めるにあたりもう一つ考えたことは、中学校への移行を見据えて、高学年での実施を前提とするのであるが、小学校において、専門的な教科指導を実施するという観点を踏まえ、学年の発達段階に応じて段階的に導入していくことである。このような考えから、3年生から教科を限定して、次のように実施した。

#### 【教科担任制の実施方法】

学年	教科	実施方法
5, 6年	社会	社会科免許所有の教務主任が担当。
4, 5, 6年	理科	理科免許所有の教諭と非常勤講師が担当 担任、支援員が必要に応じてT2として授業を行う。
3, 4, 5, 6年	体育	体育科免許所有の教諭2名が担当。
5, 6年	家庭	家庭科免許所有の教諭が担当。
4, 5, 6年	音楽	担任が授業を担当し、音楽科免許所有の支援員が技術支援を行う。

そして、習熟度別少人数指導を中心に確かな学力を付ける算数部会、意欲的な学習姿勢づくりを目指して確かな学力を付ける教科部会、障がいの特性に応じた支援のあり方を目指した特別支援部会の三部会制を取り入れて、教科専門性に関わる研修を全員で進めた。

#### 【研究組織】



#### (2) カリキュラム・指導方法等に関わる取組内容

平成24年度の『全国・県学習状況調査』の結果を中心に、児童の実態を踏まえて、「どこで躓いているのか、何が理解できていないのか」などを洗い出し、『指導の工夫・授業改善のポイント』を整理し、それを受けて各単元において『授業改善ポイント』をどこにおくかを明確にした授業づくりを進めた。

#### 【実践例 5年理科 単元名 「ふりこのきまり」】

『全国・県学習状況調査』の結果から、昨年度の4年生段階では、「図やグラフ等の資料を読み取り、解釈したり、結論を導き出したりする力」に弱さがあることが分かった。

そこで、『指導の工夫・授業改善のポイント』として、「表やグラフ、観察、実験の結果を基に、考察する活動を意図的に位置付ける。」ということを取り上げた。それを受け

て、本単元「ふりこのきまり」では、『授業改善ポイント』として、「条件制御を意識させて、振り子が1往復する時間を調べ実験に取り組みさせる。」「表やグラフなどの実験の結果を基に、比較したり、関係付けたりして考察する意見を意図的に価値付ける。」として、授業を行った。

このように視点を明確にして、授業を行ったため、条件制御にこだわって実験する姿や実験の結果を表やグラフにまとめ、それに基づいて自分の意見を発表しようとする姿が見られた。

### (3) 教員研修に関わる取組内容

- ・教科の専門的な知識を学び合うことで、教科の専門でない職員の指導力向上を図る。
- ・教科の専門教師は、研修の講師をにやうことにより、更なる指導力向上を図る。

のねらいの基で、夏季休暇を中心に教員研修を進めた。

#### ①電子黒板活用実践交流（8月21日）

I C T機器の活用を得意とする教員が、1学期に行った実践を基に交流した。あまり得意でない職員も、「そんなソフトがあるのならできそう。」「算数に授業で使ってみよう。」等の意見が出され、2学期にすぐにでも実践できる内容のある研修となった。

#### ②図画工作実技研修（8月26日）

可茂教育事務所の多田課長補佐を講師で迎え、実際に造形活動を行ったり、絵画の指導方法や鑑賞の仕方について指導を受け、図画工作科への指導力の向上を図ることができた。

その他、体育実技講習の伝達研修や人権教育、キャリア教育、教育課程伝達講習を基にした研修を行い、各教科等で、どのようなことに配慮しながら、児童に指導していけばいいのかについて、研修を深めた。

## 3 成果

### (1) 児童の学習状況に関わる成果

教科担任制を行った理科、社会について、「岐阜県における児童の学習状況調査」の結果を、昨年度の結果と比べてみると、次のようであった。

#### 【理科】（4年・5年共に教科担任）

	24年度	25年度
5年	68.0	81.3
4年	74.3	86.4

#### 【社会】（4年は担任、5年は教科担任）

	24年度	25年度
5年	79.5	75.5
4年	64.5	64.3

5年生については、4年生段階より社会は、11%、理科は、7%の伸びが見られた。母集団が異なるため、昨年度の5年生の結果と単純に比較することはできないが、理科については、13%程度上回っている。これは、社会科は、昨年度も、5年生から教科担任制を実施しているが、理科は今年度から新たに実施したことが影響しているためと考えられる。

4年生についても、理科については、12%程度上回っており、教科担任制の効果が顕著に表れる結果となっていると考えられる。

また、3～6年生で習熟度別少人数指導を実施している算数科においても、「指導方法工夫改善調査」の【共通評価内容】である正答率は、昨年度に比べ、各学年ともに2%から12%程度アップしている。少人数指導によって、

「分からない時にすぐに教えてもらうことができるのでいい。」

「問題を分かりやすく説明してくれて、私のペースに合わせてもらえるので分かるようになった。」

等の感想が多くあるだけでなく、「算数が嫌い」という児童の割合も5%以下になり、大きく減少している。ただ、「岐阜県における児童の学習状況調査」の結果には大きな変化は見られず、「知識・理解」や「思考力」の観点別項目での指導方法に課題を残している。

さらに、4～6年生児童を対象として12月に実施した「教科担任制に対するアンケート（一部抜粋）」を見てみると、各質問項目において、『とてもそう思う 又は まあそう思う』と答えた割合（％）は、次のようである。

内 容	割合（％）
教科担任の先生の授業は楽しみですか？	91.5
勉強がよくわかる、できるようになりましたか？	89.1
勉強に対する興味が高まりましたか？	84.3

理科や社会科を含め教科担任制を行った家庭科や体育科、音楽科に対する児童の思いは、「実験や観察、資料の見方、調理する時などわかりやすい。」「うまくできるコツ（器楽演奏や器械運動など）を教えてもらってできるようになった。」等、学習の理解や技術面での向上とともに、今までの学習よりも意欲的に取り組むことができるようになったと実感している。そして、これからも教科担任制を続けてほしいという思いについては、どの学年においても高い数値を示している。

## (2) 教員の意識等に関わる成果

12月に行った「教科担任制に対する教員アンケート（一部抜粋）」を見てみると、各質問項目において、『とてもそう思う 又は まあそう思う』の割合（％）は、次のようである。

教科の専門性を活かした授業が実施できていますか？	100.0
複数の教員で児童の指導に当たることは生徒指導上効果がありますか？	100.0
教材研究の時間が減り、仕事がやりやすくなりましたか？	84.6
情報交換などの連携を行うことはできていますか？	100.0

一人一人の職員が、得意とする教科を専門性を活かして指導しようという意識にとらえ、互いに切磋琢磨しながら取り組もうという意識がうかがえる。具体的には、

- ・いつもは専門教科以外の授業参観をすることが少ないため、授業展開を始めとして、どんなことに配慮するといったかを学ぶことができた。
- ・要支援児童を始めとして、複数の教員で指導することで、一人一人の児童のよさや問題点を交流し、次の指導に生かすことができた。
- ・苦手とする教科の教材研究をする時間が少なくなって負担軽減が図られることで、より専門教科への指導に集中しやすくなった。
- ・特に、若手職員にとっては、専門的な指導を見ながら学ぶことができるため、これから自分が担当した時に役立つだけでなく、他教科を指導する時の「授業姿勢づくり」や「声かけ」などにも役立てることができた。

また、『自分が教える時間が減ったことで、学級担任として学級経営上等の不安や不都合を感じますか？』という質問には、全ての担任が、『そう思わない。又は、あまりそう思わない。』と回答している。行事等に向けての取り組みで、時間割変更等の難しさの問題は抱えているが、職員にとっても、研修を深める場であり、学級経営の充実にも良好な結果をもたらすものととらえていることがわかる。

## (3) 保護者の意識等に関わる成果

4～6年生の保護者を対象に12月に行った「教科担任制に対する保護者アンケート（一部抜粋）」を見てみると、各質問項目について、『とても良いと思う 又は まあ良いと思う』の割合（％）は、次のようである。

内 容	割合（％）
教科担任制は良いと思いますか？	92.0
お子さんの学習意欲は高まりましたか？	62.5

教科担任制については、9割以上の保護者から支持を得られたが、子どもの学習意欲の高まりを家庭で十分に実感するまでには至っていないのが現状である。保護者からは、

- ・音楽や体育、図工など専門性の高い教科はメリットが大きいと思う。

- ・先生が代わることで、子どもたちにほどよい緊張感が生まれて良い。
- ・子どもの様子を見てみると、楽しんで授業をしているようなのでいいと思う。

等の意見を聞くことができた。また、中学校へのつながりを考えて、続けてほしいという想いも多く見られた。

その他に、

- ・多くの先生方と関わることができ、また、多くの目で見てもらえる安心感があって良い。

という意見も見られた。初任者又は若手が担任する学級においては、学級にベテランの先生も入って指導してもらえることに安心感も生まれるというメリットもあるように考えられる。

#### (4) その他の成果

##### ①学級担任と教科担任、少人数指導担当、支援員との情報交換の活発化

小学校ではともすると学級担任が全てのことを抱え込んでしまいがちである。しかし教科担任制を進め、より多くの職員が関わることで、休み時間や放課後に子どもの名前を出しながら授業を通しての児童の様子を交流する姿が著しく増えてきた。この情報交換を元にして、児童のよさを改めて担任が学級のみんなに伝えて価値付けたり、広めたりすることができるようになった。

##### ②教育相談による家庭との連携の深まり

複数の職員で児童を見て、情報交換することで、児童理解の深まりができています。生徒指導上の問題がある児童だけでなく、発達障がいを抱えている児童への対応で、「どのような言葉がけをしたら良かったか。」「どんなことに興味関心をもったか。」など、今まで気付かなかった多面的な見方や考え方ができるようになった。こうした児童理解の蓄積が、児童との教育相談だけでなく、保護者との懇談にも活かされ、家庭との連携を深めてより協力を得られるようになってきた。

#### 4 次年度以降の見通し

『3 成果』で述べたように、今年度教科担任制を行ったことで得られた児童の達成感や期待感、保護者からの信頼感、そして職員の充実感をさらに高めるために、次年度もこうした流れを踏襲していくことが大切だと考える。また、本校は、平成25・26年度と八百津町教育委員会の研究指定校になっており、次年度は公表会を開催する。その場において、「小学校からの教科専門性向上事業」の取組の成果を広く町内外に公表し、他校への広がりにつなげていきたいと考えている。そこで、次年度に向けて、次の3点の改善や修正を検討している。

##### (1) 研究体制の見直し

今年度の研究体制は、「算数部会」と「教科部会」、「特別支援部会」の三部制で進めてきたが、「教科部」を研究に加えるには、学校規模・人員配置からも無理があった。そこで、次年度は、全校を「算数部」と「特別支援部」の二部制で研究を行い、教科担任制については、研究推進委員会で研究を深め、教科の指導力を向上を目指していきたい。

##### (2) 連絡調整や情報交換の見直し

全校行事や学年行事などで時間割に変更が必要な場合は、行事のねらい達成に向けた特別な時間割編成を行い、担任同士が調整するために必要な事務手続きや時間の軽減を図るとともに、連絡の不徹底による行き違いがないようにする。

##### (3) 指導体制の見直し

職員の異動や学級担任の変更により、教科担任による教科の変更が余儀なくされるが、今年度の実績を踏まえ、できる範囲で教科担任制を進めていきたい。